

ひと

放送人グランプリ大賞に選ばれたディレクター

かなもと

まりこ

金本 麻理子 さん(48)

新型コロナウイルスの感染が急拡大した昨年、レバノンにいた。シリア難民を主役に、NHKのドキュメンタリーを撮るためだ。国境封鎖で帰国できなくなると、そのまま2カ月余り、カメラを回し続けた。取材に伴うのは、通訳兼コーディネーターの女性1人。まずは100人ほどに会って「主人公」を見つけ、自ら担ぐカメラが意識されなくなるまで、毎日通う。生活費のために腎臓を売った青年や、売春から脱してマスクを縫う仕事に打ち込む女性を番組で伝えた。小型高性能カメラや編集技術の進歩を生かして企画にあう画を撮るのではなく、事実が転がっていき様を膨大に撮り、構成を練る。短大を出て制作会社に勤めてい

た26歳のとき、在日フィリピン人の番組を任せられ、「人の生きる力を実感させられる」と密着取材のとりこに。勤め先の倒産を機に、思う存分現場に入りたいと、コッソリためた450万円を取り崩して38歳で制作会社を立ち上げた。自らも手がけるNHKの番組「ファミリーヒストリー」を地で行く偶然も。戦後日本の女性に焦点をあてた番組を作った際、街頭（がいきょう）だった女性たちを、亡き祖母が支援していた事実に行き当たった。一連の作品は、時代を映す「連続ドキュメンタリー」と評され、今年の放送人グランプリの大賞に選ばれた。いまは「旧日本軍兵士と感染症」をテーマに取材中だ。

文・田真由美 写真・惠原弘太郎

